

支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に資する研究

福祉機器開発部 井上剛伸 石渡利奈

それでは、支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に資する研究について、ご説明させていただきます。

背景と目的

支援機器は、補装具や日常生活用に限らず、障害のある方々の生活を支援する幅広い範囲を包含する機器の総称といわれています。

そのような支援機器の有効活用は、障害のある方々の支援において、最重要課題の一つとされています。

それを受けて、厚生労働省では、その普及を促進する取り組みや、厚生堂々科学研究費等では、そのためのいろいろなツールの開発が行われています。

ただ、これらの事業を基に、全国への均てん化に向けた仕組みが必要ということが背景となっています。

それを受けて、本研究では、これまでの研究で得られた知見、ツール、手法を関係者の主体的かつ継続的な取り組みとして発展させ、支援機器の開発・普及に資するモデル拠点を構築することを目的としています。

支援機器開発・普及モデル拠点の概要

実際に、現在取り組んでいるモデル拠点の概要ですが、厚生労働省で実施している、機器開発の補助事業やニーズとシーズをマッチングさせるための事業、人材育成事業などを展開していますが、こういったものが、在宅で暮らす障害のある方々の生き生きとした生活につながっていく、そこで支援機器がうまく利活用して頂ける、そういったところを描いていきたいと考えています。

従いまして、これらの間を上手につないでいく、そういった役割を持ったモデル拠点を構築したいと考えています。

具体的には、福祉用具プラザですとか、市や県のリハセンタなどを候補として想定しています。

こういった拠点において、これまでに開発してきた人材育成プログラムやモニタ評価のガイドライン、選定・導入のガイドなどのツールを活用して、支援機器の開発や普及を促進するような機能を、このモデル拠点が持っていくということで構築をしているところです。

また、そういったところで、厚生労働省のいきいき支援機器普及アンテナ事業等を活用しながら、モデル拠点が育っていく、定着していくことを目指しています。

